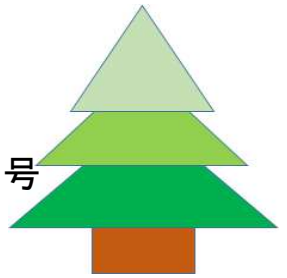




嵯峨宮頼り

第 28 号



嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2023 年 3 月 10 日

発行：嵯峨宮世話人会

嵯峨宮周辺樹木伐採 再開また中断

嵯峨宮周辺の樹木伐採は、頼り26号で報じたように中断していたが、年明け業者に相談し再開した。神社周辺の土地所有者には快く伐採と作業道敷設を許諾して頂いた。重機を入れての伐採で容易に出来るはずだったが、簡単ではなかった。林業用作業道を入れるには厳しい利用条件の場所があり、作業道も重機での伐採も手前で諦めざるを得なかった。

市道と山の間には使われなくなった旧水路があり、山へ入るにはこれを越えねばならない。集中豪雨で出水した時の排水路として残している、壊さない

「嵯峨宮頼り」は嵯峨宮を通じての情報を地域の皆様にご提供しています。バックナンバーは首記URLのホームページから見られます。神社境内の掲示板でも見られます。御相談は世話人会迄連絡下さい。

で欲しいとのこと。旧水路を乗り越えるためのスロープを市道へ造って欲しいと市へお願いしたが、仮設許可を出すから自分で造れとなった。

スロープ造り用の土砂が必要になった。昨年八月末小平の奥で集中豪雨があり土砂流出が発生、県が治山工事を行い土嚢に詰めた廃棄用土砂があると知って連絡をとり事情を説明、貰う事が出来た。



一月十八日から土嚢による仮設スロープは二日間かけ完成した。嵯峨宮からも二人が見守りで協力した。作業道は数日で百メートル余が出来た。

しかし林内作業車を使って木材を土場まで搬送

中、土嚢で造ったばかりの仮設スロープで事故が起きた。作業員が怪我をし病院に運ばれたが、幸いその後順調に回復している。

事業が全てをギリギリにしてやつとできる計画、ああしておけばと反省材料は沢山ある。二月十七日遅ればせながら関係者で宮司を招き樹木伐採と樫の木を改めてお祓いした。ご心配かけお詫び申し上げます。

新型コロナ終息するか？

二〇二〇年一月中国で発生した新型コロナ感染症も三年が経過し、政府はマスク、飲食、集会等の制限を撤廃する方向に動いた。背景にワクチン接種率が上がった事が考えられるが、本音はこれまで以上経済を止められないからだろう。グラフはNHKが公表している国内の感染者数と死者数

桐生タイムス 2022年(令和4年)12月24日 土曜日 (4)

タイムス 週末 写真特集



【彩り鮮やかに小平の神社「嵯峨宮」が、この日「祓禊祈願式」では参拝者も行列、武者たちはカラフルな衣装を纏った18日、みどり市大間々町(小平)。

国内の感染者数 (1日ごと)



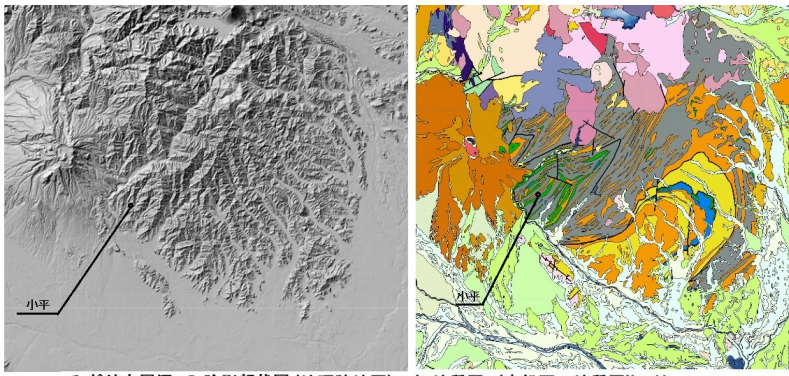
国内の死者数 (1日ごと)



の第八派迄の推移である。これを見ると第九派が来たら最悪の状態になるのではと心配する。マスクも消毒も簡単には止められないし、集会もまだ注意が必要ではないだろうか。

魅力的にアピール

都道府県魅力度ランキングで昨年度四十四位だった群馬県、知事がおかしいとクレームし話題になった。大きなお世話と放置できないのは観光や移住の指標とし経済に影響するからだ。アピールが大事

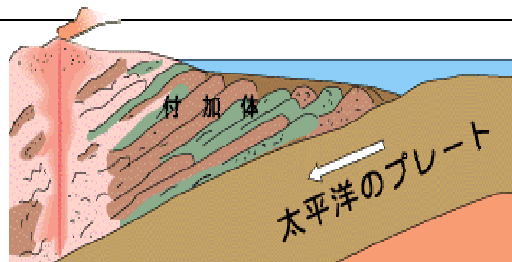


みどり市周辺の陰影起伏図(地理院地図)と地質図(産総研:地質図Navi)

な時代、住民が地域の特徴を魅力的に紹介できれば下位脱出も叶うだろう。

群馬は山が多い。令和三年の県内市町村傾斜区分データによれば、35度以上の面積比率一位が上野村86.9%、二位みどり市61.6%、三位桐生市61.1%で他市町村を圧倒している。それほど高い山がないのに傾斜地区が多いのは何故か。東毛地区周辺(足尾山塊)の起伏図を見ると細かく谷が入り起伏の数が多い。地質図では該地区は北東から南西へ斜めに幾つもの筋状の地層が重なっている。地球科学のプレートテクトニクスによれば日本列島の関東以北は北米プレートに属し太平洋プレートが沈み込んでいる。海底を移動してきたプレートには、チャート、石灰岩、砂岩、泥岩といった多くの堆積物が層を成して載っており、プレートが沈み込

む際に陸側のプレートに削られ張り付き(付加体)、更に押されて褶曲や断層を繰り返して層状の山塊となる。日本列島もこのようにしてできた部分が幾つ



かあり、コノドント等海底に沈んだ海洋生物の化石や鍾乳洞など、太古の海が山に見つかる。地上に出た付加体は長い年月の風化作用で脆い層が浸食され、起伏の激しい山谷が広く形成される一方、砕かれた岩石は河川下流に堆積し扇状地等も形成する。山谷ばかりでは耕作地は少なく通行も居住もし難い。足尾山塊と渡良瀬川は北関東と東北地方の間に立ちほだかり扱い難い地形であっ

た。落人部落、桃源郷、渡良瀬川東岸、一線を画したこの地を表現した言葉だ。普通の人は避けるが、訳アリ人は寄つて来る。

平安時代朝廷は東征に群馬で兵を揃え蝦夷を討ちに行つた。男手が無くなり女堀の伝説が生まれた。かかあ天下の始まりだ。

同時代前九年の役、虜囚となつた鳥海三郎(安倍宗任)は源義家に連れられ京へ行く。家来達が後を追つて来たがこれ以上追う事は許されず東(小中や松島)に土着、今でも安倍一族を口にする。宗任は京で

学があるからと助命され四国・九州へと流されたが宗像市の大島で活躍、千年後子孫は総理大臣になつたとか。

鎌倉時代の末期、嘉暦の頃夢破れた官軍の武士七名が奥州からの帰り、時節の到来を待つとしてこの地に土着、社宇を建て一村を成し小平と命名する。

戦国時代の天正二年、小平と川内の境にある谷山城は越山した上杉謙信に男女悉くなで斬りにされ落城したが、今その事を知る地元民は殆どいない。

江戸初期大阪城落城で落ち延びた大阪方武士が小平の奥の茂木に隠れ住む。時が経ち川に流れてきた杓子を見て上流に人が住んでいることが知れたとか。

天保の大飢饉で小平は餓死者56人を出した。高倉山に登りところを掘り流水にさらして食す。小平川は黄色く染まったという。東など山中は団結し打ち壊しを試み、有力者に金を出させた。西鹿田では質素とやりくりで餓死者なしを誉とした。

ニーチェは「汝の立つ所深く掘れ、そこに必ず泉あり」と教えた。先祖が子孫のために書き残してくれた経験こそ魅力あるネタである。(阿直)